

男女を問わず、アンダーウェアは普段使うものとは違ってそういう専用のもを用意しよう。肌に直接触れるウェアが汗でぐっしょりでは、上にいくら重ね着しても効果がないのだ。

コミケの着こなしその③ カイロを上手に使うって1枚薄く

カイロは冬コミの必需品。しかし上手に使うことでその効果を高めることができるのだ。

カイロは2つ用意しよう。貼り付けるタイプのカイロを1つ、小さなミニカイロを2つ用意するとよい。貼り付けカイロは腰に密着させておく。

前頁で『腰を冷やさないように』と書いたが、そこにカイロをプラスすることで、それほど厚着をしなくても1日暖かく過ごすことができるのだ。

ミニカイロは1つはマフラーや服の襟に貼るか、バンドナなどに包んで首の後ろに当てておくと、特に入場待機中などには有効だ。残りの1つは手指を暖めるのにポケットに入れておこう。

ただし、カイロの落し物はなかなか迷惑度が高いので、貼り付けタイプでない場合は特にトイレの中などに落とさないよう重々注意しよう。

コミケの着こなしその④ 冷たい風雨をシャットアウト！

冬の関東は冷たく乾燥した風が吹いている日が多く、特にコミケ会場のビッグサイトは海辺にあるために、早朝などはかなり風が強い日も多い。

また、最近のコミケでは（前冬の降雪の例もある通り）夏冬を問わず雨への備えは不可欠だが、荷物の多さや人の密度を考えれば折りたたみ傘だけでは不十分だ。

特に、入場待機行列や購入待ちなどのいわゆる行列の中では、前後左右の参加者との間隔が狭いため、安全のためほぼ傘はさせないと考えてよい。

そこで用意したいのが、『ヤッケ』『パーカー』『アノラック』などと呼ばれるナイロン系の薄い上着だ。

これは主に大型スポーツ用品・登山用品・アウトドア用品店などで手に入るが、非常に小さくためるのが特徴で、少し良いものなら完全防水透湿素材で作られているので、1枚で風雨を完全に防ぐことができる。

防水性のない衣服はもし濡れたら逆に体温を奪うことになってしまうし、防風性のない衣服は風が少し強くなれば体温を維持できない。

でもかさばる専用の上着は何かと取りまわしが悪い。

そこで、こういったコンパクト・高性能なウェアを1枚用意することで、もしもの時だけ、身体の外殻に風雨を弾くバリアーを張ってしまおうという考え方だ。

これなら、会場内に入ったら脱いでくるくるたたんでバッグの片隅に放り込んでしまえば全く邪魔にならず、また、お気に入りのファッションスタイルにも影響がない。

現在のコミケでは『もしも』を常に考えておく必要があるが、悪天候・悪条件下では体が濡れない、風を通さないだけでも天国と地獄ほど快適さが違うのだ。

なお、これらのウェアは他の衣服の一番上に着るものだけに、多少大きめのサイズのものを購入するのがポイントだ。



コミケの着こなしその⑤ 待機の際はさらに1枚

じっとしているときは外気に体温を奪われやすい。特に、上半身は重ね着できても脚部はできることが限られる上に面積が大きいため熱を奪われる率が高い。

そこで、薄手のものでよいので膝かけやブランケットを用意しておこう。

特にスカートでの参加を考えている女性には必須だ。

中厚手のスポーツタオルや、何もなければ新聞紙だけでも、しゃがんだ時に露出してしまう足首から靴の上側を覆うようにかけておけばそれだけでも暖かい。

また、直接地面に腰を降ろさないで済むように、何らかの敷物、可能なら発泡スチロールの板などの断熱性の高いものを用意しておこう。空気を入れて膨らませるタイプのクッションは断熱性も高く座りこちもよい上に、使わないときは小さくたたんでおけるので繰り返し使えて一番のオススメだ。